



豪州準備銀行は国債買い入れ縮小を計画通り実施へ

- 豪州準備銀行(RBA)は国債買い入れ縮小計画を堅持する方針。買い入れ額は9月初旬より週40億豪ドルに減額へ。
- 豪州景気はロックダウンの影響から7-9月期のマイナス成長が見込まれるも、RBAは2022年の力強い成長を見込む。
- これまでの経験では感染が抑制されれば、経済は早期の回復が見込まれる。ワクチン接種進展も景気回復を後押し。
- 先物市場ではRBAの利上げ観測が根強い。2022年の景気回復に焦点が向かえば、豪ドルが見直される可能性も。

RBAはテーパリング計画を堅持する方針を示す

豪州準備銀行(RBA)は8月3日の理事会において、前回会合で決定した国債買い入れ縮小(テーパリング)の計画を堅持する方針を示しました(図1)。市場では、豪州における新型コロナウイルスの感染再拡大(図3)とシドニーでのロックダウン措置の延長を受けて、RBAがテーパリングを延期または撤回するとの観測が浮上していました。

RBAは引き続き2022年の力強い成長を見込む

豪州景気の動向に関しては、感染拡大やロックダウンの影響から2021年7-9月期GDPはマイナス成長が見込まれるものの、RBAは2022年には豪州経済が4%を若干上回る力強い成長を取り戻すとの見方を維持しています。

RBAは強気の景気見通しの背景として、①これまでの経験ではひとたび感染拡大が抑制されれば、豪州経済は早期の立ち上がりを示してきた、②2022年末までには大多数の国民へのワクチン接種が進むと見込まれる(図4)、③ロックダウンの労働市場への影響は主に労働時間削減等によって調整される可能性が高く、失業率は2023年末には4%へ低下が見込まれる、などの要因を挙げています。

先物市場では依然として利上げ観測が根強い

金利先物市場では、7月6日のRBA理事会以降、シドニーでのロックダウン等の影響から利上げ観測が後退してきたものの、8月3日時点でも引き続き2022年末頃からのRBAの利上げ転換が根強く織り込まれています(図2)。

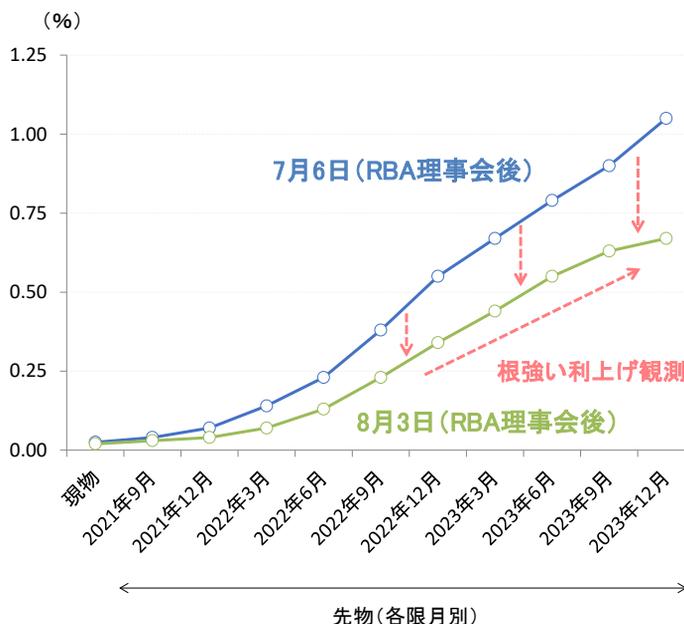
足元の豪ドル相場は、米利上げ観測の浮上や豪州景気の不透明感の高まりから弱含みの傾向にあります(図5)。もともと、現在のシドニー周辺での感染拡大がロックダウンによって終息に向かい、改めて2022年に向けた豪州景気の回復やRBAの利上げの是非に市場の注目が向かえば、豪ドルが見直される可能性もあると考えられます。

図1: 豪州準備銀行(RBA)の政策決定の概要

- **【金利据え置き】**政策金利(キャッシュ・レート)を0.10%で据え置き。また、2024年4月満期の豪州国債の利回り誘導目標を0.10%で据え置き。
- **【国債買い入れの縮小(テーパリング)計画を維持】**2021年9月初旬までは現行の週50億豪ドルの国債買い入れを継続し、その後は少なくとも11月中旬まで週40億豪ドルの買い入れを実施する。
- RBAは債券購入ペースに対して柔軟なアプローチを維持する。債券購入プログラムは、経済状況と感染動向の観点から今後の見直しを継続する。

(出所)豪州準備銀行 (注)2021年8月3日理事会の声明文。

図2: 豪州の銀行間金利(90日物)の先物カーブ

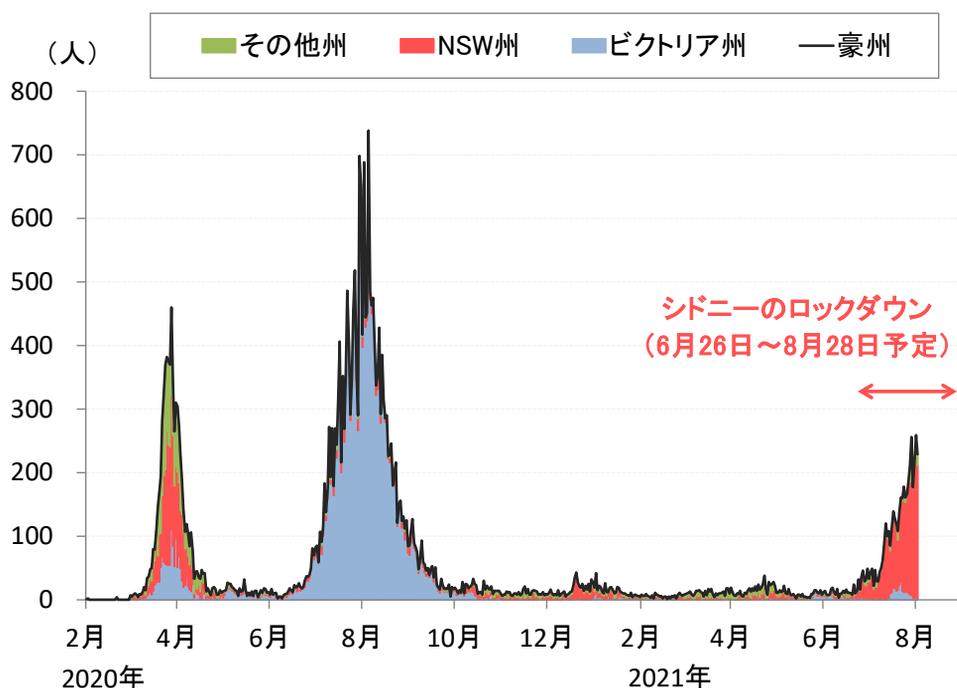


(出所)ブルームバーグ

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。

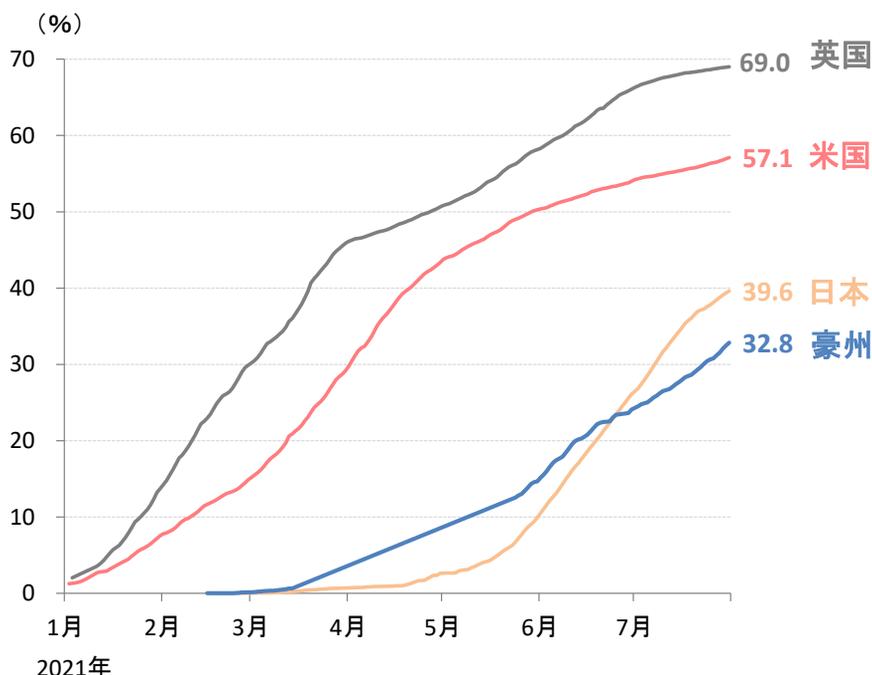


図3: 豪州の新型コロナウイルスの新規感染者数の推移



(出所) 豪公共放送ABC (期間) 2020年2月1日～2021年8月2日

図4: 主要国の新型コロナウイルス・ワクチン接種率の推移



(出所) Our World in Data (期間) 2021年1月1日～7月31日

(注) 最低でも1回以上のワクチン接種を受けた人の比率。

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンブルトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンブルトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。



図5: 豪ドル相場(対米ドル・対円)の推移と市場予想



(出所)ブルームバーグ (期間)2019年1月1日～2021年8月2日

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンブルトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンブルトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。